

阿南市立加茂谷中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 習得した知識や技能の関連性に気付く「学習のめあて」の設定
- ② 様々な考えや意見を取り入れ、深く学び合う生徒の育成

【小中連携または中高連携における共通の取組】

言語活動の充実を図り、「聴く・話す力」を育成する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職の授業参観、年2回実施の教員同士の授業参観および各研究授業等で取組状況の把握に努める。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に集中して取り組み、出された課題は期限内に提出する努力ができる。 ●数学の計算問題や漢字の学習、英単語の練習など、反復が必要な学習習慣が身に付いていない。	◇「なぜ、その知識や技能の習得が必要なのか」また「その知識や技能を身に付けると何ができるようになるか」ということを見通して、基礎的・基本的知識や技能の習得に主体的に取り組むことができる。	・授業内で基礎的な知識や技能を身に付けるための演習に取り組む時間を確保する。 ・一人1台端末のドリルを活用したり、小テストを実施したりする。 ・「身に付けた知識・技能で何ができるか」をめあてで示す。		◇「本時のめあて」、「本時のまとめ」を生徒の生活とつなげて示すことで、学習内容の必要性や、その知識・技能のつながりに気付くことができるようになった。 ◆タブレット端末の利活用や、一部の生徒の基礎的な知識・技能の定着に課題が残った。	基礎的な知識・技能と生活の事象との関わりに気付き、それらをつなげて考えることができるように教科等カリキュラム・マネジメントを体系的に実践する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○習得した知識や技能を使って、ペア・グループでの話し合うことができる。また、積極的に発表できる生徒が増えている。 ●自分の考えと違う意見を取り入れて考えを深化させたり、聴いている人が興味をもつように発表したりする思考力・表現力に課題がある。	◇協働的な学習を通して、多様な考察や判断を学び、自らの考えを深め、それを他者にわかりやすく伝えることができる。	・全ての教科において、積極的に協働学習を取り入れ、意見をまとめたり、新しい考え方を創造したりする。 ・発表の機会を増やし、プレゼンソフトなどを積極的に活用し、表現力を高める。		◇全ての教科でペアやグループワークなどの学習形態に取り組み、話し合ったり、意見をまとめたりすることができた。また基礎的な知識や技能を用いて、自分の考えをプレゼンで表現することができた。 ◆自分と違う意見を積極的に聞くことに課題がある。	身に付けた知識や技能をつなげて自分の考えを構築することができるようになってきた。多様な考えを取り入れ、新しい考え方を創造することをめざしたカリキュラム・マネジメントを実践する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して、活発に話し合いができる。 ○疑問が生じたり、違う考えをもっていたりすると、自分の言葉で発言できる。 ●学習の繋がりに気付き、深く思考する態度に課題がある。 ●将来を見据えて、見通しをもった学習計画の立案や実践に関して課題がある。	◇社会の様々な事象と中学校で身に付ける知識・技能が深く関連していることに気付き、「生きる力」を育成するための学習に主体的に取り組むことができる。 ◇自分の将来について真摯に考え、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができる。	・教科内および教科横断的なカリキュラム・マネジメントを取り入れ、既習内容と新しい内容を生徒が繋げて考えられるような、学習のめあてを設定する。 ・キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を積極的に推進することにより、学習意欲を高める。		◇教科と教科、教科と領域等の横断的なカリキュラム・マネジメントの実践により、生徒が様々な学習のつながりに気付き、学習に対して興味や関心をもって取り組むことが増えた。 ◆職場体験学習やキャリア教育出前講座などに取り組んだが、将来への見通しを立てた計画的な学習には至っていない。	生涯に渡って「学ぶことがおもしろい」「学びたい」という主体的な姿勢を育成するために、総合的な学習を中心に各教科の単元を配置したり、教科内で効果的な単元構造の実践を行ったりする。また、個々の生徒の状況や状態を把握・理解し、その時々に応じた支援をする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

